

特定非営利活動法人

Newsletter

介護の社会化を進める

MIYAGI

一万人市民委員会宮城県民の会

第150号 【令和6年10月1日】

《
発
行
人
》

特定非営利活動法人
介護の社会化を進める
一万人市民委員会宮城県民の会
代表理事 佐藤 年夫



<鳴子峡>



団塊世代の独り言

事務局長 伊藤 友行

団塊の世代が高齢者となる2025年を目前にして、介護の社会問題の一つとして取り沙汰されている。

団塊の世代とは、昭和22年から昭和24年前後の3年間に誕生した世代のことで、故堺屋太一氏の著書である小説「団塊の世代」に端を発しています。

戦後の混乱した食糧難時代に生まれ、中学校や高等学校を卒業して就職したこの世代の人は、当時は貴重な労働力として「金の卵」と呼ばれ、大学生達による過激な学生運動が盛んな時代であった。

その後の日本の社会は、オイルショックやバブル経済を経験し、バブル崩壊による企業のリストラや倒産、企業年金制度の崩壊など苦難の時もあったが、激しい競争社会の最前線でこれらを体験し、戦後の高度経済成長の発展を牽引した世代の人達である。

この世代が自分達の親世代の介護を終え、自分達が介護される側になりつつある今、介護の人材不足や社会保障費の不足等、介護の社会問題と直面している。

コロナ感染症の蔓延で落ち込んでいた日本人の平均寿命は、2024年は3年ぶりに男性81.09歳、女性87.14歳と上昇に転じているが、平均寿命とはゼロ歳の余命年数であり、団塊の世代が誕生した1947年当時の日本人の平均寿命は男性50.06歳、女性

53.96歳で、現在では考えられないような差が生じている。これは戦前と比較して乳幼児の死亡率の低下や戦争による犠牲者が無くなったこと、そして医療の発達等が要因とされています。

高齢者の介護問題には男女別・年代別平均余命と男女別健康寿命から分かる男女別不健康な期間をいかに短くするかにかかっています。高齢者の基準とされている75歳だけを中心に見てみると平均健康寿命は男性72.68歳、女性75.38歳で、年代別平均余命を考慮した平均寿命は男性87.13歳、女性90.74歳となり、不健康な期間は男性14.45年、女性15.36年で既に健康で平均健康寿命年齢に達した方、あるいは通過した方は限りなく不健康な期間をゼロ又はマイナスを目指して、健康に留意した生活を継続して介護の社会問題の解消に尽力して頂きたい。

この団塊の世代の全員が後期高齢者となる2025年は、介護人材の不足から介護難民の多発が予想されている。一万人市民委員会宮城県民の会では、介護サービス情報の公表等の調査活動でもこの世代の調査員が主導的な役割を担っており、どんな状況や時代になろうとも介護サービスの質の低下にならないように警鐘を鳴らし続ける団体でありたいと願っている。

新 旧 理 事 の 挨 拶

体験学習を支えに

< 新 理 事 > 佐 藤 静 江



現役時代は幼児施設一筋に子ども達と保護者、地域の皆様に支えられて迷いなく過ごして来ました。海辺の町で、あの甚大な震災・大津波に遭遇して我が家は全流出し、ふるさとを失いました。それでも関わる皆さんに助けて頂き、今があることに感謝の気持ちでいっぱいです。

仙台の生活に慣れてきた頃、ボランティアサークルの先輩から一万人市民委員会に誘って頂きました。全く未知の世界で、福祉サービス・外部評価・高齢者施設等々と誰もが辿る道と興味津々でした。

今年、2回目の第三者評価調査員の養成研修を受講しましたが、途中に介護のために長期休業も有り、徐々に復活して行こうと心掛けています。

実践が少ない中で、理事と言う大役のお声掛けに「当然無理」の即答でした。大先輩の出来ることをできるだけ一緒にと再度のお誘いに、第三者調査員の役割と諸先輩方の生き様に魅力を感じて、小声で「ハイ」と言ってしまいました。

第三者評価活動は、県では現行の保育所、障害者・児童福祉サービス、高齢者福祉サービス、救護施設の4分野が有りました。新たに法改正で令和5年度から幼保連携型認定子ども園及び地域型保育事業が施行になりました。政治も少子化対策強化で大きく目を向けられている現在、そしてこれから「現場が求めているものに寄り添い、伴走者になれるよう」穏やかに努めて行きたいと願っています。

「一万人市民委員会」永遠なれ

< 前副代表理事 > 小 菅 文 雄



私と一万人市民委員会との出逢いは、情報の公表の調査が始まる直前の2005年の春頃、大川代表とお会いしたことがきっかけでした。大川代表の熱い説得により、私を含めた約10名で「調査員の人材派遣依頼」から始まったことが昨日のことのように思い出されます。

また、私が活動していたSLA（シニアライフアドバイザー）の経験から推奨、継続している「電話相談」と「成年後見制度」等の『よろず相談室』は、現在もご協力いただいている武田先生及び安田先生のお陰で、皆さんの問題解決の一助となっていることと思います。

私も83歳を迎え、自分の健康と妻の病院通い等で不安な日々が続く皆様には大変ご迷惑をお掛けしていることから、健康で若い人に道を譲りたいとの考えに至りました。

一万人市民委員会は遣り甲斐のある介護施設の調査活動です。事前の準備は大変ですが、事業所の調査に入ると職員、入居者共々一生懸命に頑張っている姿が目に入り、頭の下がる思いで帰った事業所も数多くあり、介護される入居者を自分に捉えて、いつの間にか真剣になっている自分がいました。

そんな仕事の出来るNPOを大切に、県・市町村の要請に答えて行く一万人市民委員会と介護の社会は、形・内容は変わっても永遠に続きます。

“一万人市民委員会よ、永遠なれ”

永い間お世話になりありがとうございました。

新調査員ご紹介!

皆さんへの質問項目

- ① 会員になったきっかけ
- ② 介護・福祉について思うこと
- ③ 趣味・特技
- ④ 今後の目標

太 田 律 子



- ① 知人から声掛けを頂いて。
- ② 今新人研修を受講中です。受講して介護・福祉の必要性と重要性を身近に感じました。利用者様のために、多くの方々が関わり心を掛け合っている様子も感じました。
- ③ 音楽鑑賞・保護猫（子猫を保護して3年目、カワイイです!）
- ④ 研修を担当して下さった方々の誠実な姿を見て、人のために自分が出来ることをやって行きたいと思えます。

木 内 明 徳



- ① 知人からのお誘いにより。
- ② 故郷に「びんころ地蔵尊」と呼ばれるお地蔵様があり、「ピンピンころり」の健康長寿にあやかり県内外から参拝者が訪れます。私も元気で長生きしコロッと天国に行く、そんな人生が送れたら幸せだと思います。しかし、高齢や心身の障害等で日常生活を快適に送れない方には生活援助や身体介護の提供が必要であり、そうしたサポートが介護なのかと思います。
- ③ サッカー観戦（ベガルタ仙台を応援して20年超）
- ④ 介護の経験が無く、講習で学ぶことが全て勉強です。調査員としてやって行けるか自信はありませんが、頑張りたいと思います。サラリーマン時代とは全く別の世界で、仕事できることが楽しみです。

関 根 久 仁 雄

- ① 妻の知人の紹介。
- ②、③は特になし
- ④ 今後の生活の目標は健康に留意し、悠々自適な生活を送りたい。

今年度の調査・評価活動状況報告

介護サービス情報の公表調査活動

2024年度の介護サービス情報の公表調査は、厚労省のシステム改修が遅れたことにより2025年新年の1月7日から3月21日の期間で実施することとなり、調査実日数は50日となる予定です。調査事業所件数は宮城県委託分330件、仙台市委託分215件で、合計545件となる見込みで、昨年度の調査実績は1日当たり8.1件でしたが今年度は10.9件となり、かなり厳しい調査日程となっています。

今後の作業工程は委託機関及び公表センター等と協議して決定する予定ですが、調査方法は訪問調査で調査員の編成や調査日程などに検討が必要となっています。調査員各位には冬季間の調査となり、調査件数も多くご苦労をお掛けすることになりますが、調査員各位の夫々の都合を伺いながら、円滑に調査を進めたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

会員支え合い活動の推進

6月20日（木）に仙台市地域包括ケア推進課の板橋哲也主任をお招きし「共生社会の実現を推進する認知症基本法並びに仙台市の取り組み」についての講演を頂きました。



講演の要旨は、下記のとおりです。

- (1) 基本法の目的は「認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症の人を含めた国民一人ひとりがその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重し、支え合いながら共生する活力ある社会の実現を推進していく」ことです。
- (2) 仙台市では、令和6～8年度高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画で、基本目標と8つの施策を策定、認知症施策は次の①～③の3本柱で推進する。
 - ①市民一人ひとりが認知症への理解を深め、「認知症になっても、共に希望を持って生きることができる」新しい認知症観を広げる
 - ②バリアフリー化と共生社会づくり
 - ③医療・介護専門職等の多職種連携による対応力強化

講演終了後、参加者25名による会員交流会を開催し、和やかな時間を過ごしました。

福祉サービス第三者評価活動

前年度の第三者評価調査実施状況を踏まえて、今年度第1回福祉サービス第三者評価推進委員会を6月12日に開催、受審事業所への負担軽減及び当会の運営状況等を踏まえた検討を行い、今年度から第三者評価調査方法を下記のように改善して活動を展開します。

1. 現行2日間（各10～16時）で行っていた調査日数を、1日間（9～17時）で実施する
2. 事業所側の運営系、福祉系別に各1日ずつ行っていた調査を、運営系、福祉系に分かれ1日で実施する
3. 評価調査員活動費の見直し等について検討する
4. その他
 - ◎ 令和6年6月3日（月） 全社協主催のZOOM研修に参加
 - ・福祉施設、事業所の「利用者の最善」と「質の向上」について評価調査者間で共有した
 - ◎ 電話による第三者評価調査受審への案内と問い合わせの推進
 - ◎ 第三者評価受審加算適用保育所・園への受審推奨

福祉サービス第三者評価受審は任意であることから、電話による問い合わせ及び訪問を推進し、「丁寧かつ迅速」な対応を展開します。

地域密着型サービス外部評価調査活動について

コロナ禍の3年間は、調査時間の短縮等を余儀なくされ、調査員の皆さんにも負担をお掛けいたしました。

昨年5月に5類感染症となったことから、今年度の調査は従来に戻り、時間帯や昼食、設備見学等も実施することになりましたので、下記を参照にこれまでより以上に外部評価実践状況成果品を事業所から認めて頂けるよう、一層の資質向上に努めて頂くことを期待しております。

- ※調査内容等の変更事項（カッコ内は昨年度まで）
- <調査時間> 10時～16時（13時～16時）
 - <設備見学> 実施する（聞き取り確認）
 - <昼食依頼> 事業所へ依頼（なし）
（注：コロナ感染症等の事情による場合は、事業所と協議のうえ柔軟に対応する）
 - <調査依頼> 112事業所（R5=122事業所）
（依頼件数は8月末現在数）
 - <調査期間> R6. 7月～R7. 3月（9カ月間）
 - <評価委員会> 毎週水曜日（毎週金曜日）

※4月以降の活動状況は次のとおりです。

- ◎地域密着型サービス外部評価調査審査委員会（7月3日（水） 審査委員3名来所）
- ◎第1回調査員フォローアップ研修会開催（7月19日（金） 参加者22名）
- ◎宮城県主催フォローアップ研修会開催（8月8日（木） 参加者20名）
- ◎宮城県評価調査員新人養成研修（7月10日～9月13日 1名受講）



点字翻訳ボランティアサークル

会員 米倉多美枝

早いもので一万人市民委員会に入会して8年目を迎えました。以前仕事でテルウェル仙台ビルに出入りしていた頃、ある先輩から二階の奥にあるNPO法人一万人市民委員会宮城を紹介され、「NPO法人」「社会参加」等の真新しい言葉に惹かれました。

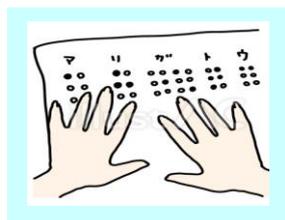
諸先輩方にご指導を頂き、調査員の経験も少ないままで事務局へ入り、現在に至ります。熱しやすく冷めやすい私ですが、何とかここまで来ました。その先輩とは今もボランティアサークル活動で一緒にいます。今回はこのサークルを紹介させていただきます。

点字翻訳ボランティアサークル「ウェルネットみやぎ」です。「ウェルネットみやぎ」はNTT五橋第2ビル1階の「OB・OGサロン」において、毎月第2土曜日午前11時月例会を開き活動しています。

1997年に設立し、現在20名程の会員が仙台市内外から集まり、視覚障害者等に情報を提供する「サピエ図書館」への点字データ図書を提供すると共に、朝日新聞コラム「ひと」、「天声人語」の点訳が主な活動です。

点訳図書は各グループで図書選定から始まり、じっくり時間をかけてサピエ図書館にアップします。サピエ図書館の蔵書は充実しており、新書・ベストセラーなどを全国のボランティアサークルが競って点訳・アップしています。また、朝日新聞のコラム点訳発送作業担当表を基に、毎日点訳したものを一週間取りまとめ、点字印刷又はメール

で利用者に送ります。利用者には一週間遅れで届きますが、点字専用プリンターで紙にプリントアウトしたものを読んで頂くか、或いはパソコン等の変換ソフトを使って楽しんで頂くことができます。



点字と言うと「6点入力」を手動で行った経験がある人もいると思いますが、当サークルはパソコンで「点訳ソフト」を利用し、ひらがな入力だけで簡単・手軽に出来ます。先輩から手解きを受けて作業は自宅で自分の好きな時間に行い、作業の後は対面かメールの送受信で確認しながら完成を目指します。

点字とはフランス人ルイ・ブライユによって1825年に考案された文字で、日本の点字は東京盲啞学校教員であった石川倉次によって翻案され、1890年に制定されました。今では世界各国で点字が視覚障害者の読書・学習・コミュニケーションの最も有効な文字として広く用いられています。

目の不自由な方だけでなく、事故や病気等で一時的に本を読むことのできない方などは、音声ガイド等に置き換えて読書を楽しんでいます。

どうぞ少しでも興味が出ましたら、見学に来て下さい。いつでも新しい仲間をお待ちしています。

「なんでも相談」

5月からは、相談の申し込みを事務局で受け付けた段階で相談日程を調整し、毎月1回開催する方法に変更しており、5～8月の4ヵ月間の相談件数は3件でした。

顧問の弁護士、司法書士に相談のある方は、事務局「022-293-8158」までお申し込み下さい。

2024年度理事会開催状況

第1回	4月19日(金)	14名/16名参加
第2回	5月29日(金)	14名/16名参加
第3回	8月30日(金)	13名/16名参加

※議題及び審議事項等の詳細は、一万人市民委員会事務局備え付けの「理事会議事録」ファイルをご覧ください。

～
～
～
編集後記
～
～
～

今年の夏は2024オリンピック&パラリンピック!!!
パリと日本の時差が7時間あるため、応援で毎晩、寝不足気味だったのではないのでしょうか？
結果として日本の金メダル獲得数は、前回大会の27個に次ぐ記録で、アメリカ、中国の40個に次いで今大会3位となりましたね。私にとって今年の熱い！暑い！夏でした。
次回のロサンゼルス五輪の追加競技として、野球・ソフトボールなど5種目が提案されることになるそうです。スポーツ好きとしては楽しみが増えますね。

引き続き開催されたパラリンピックでも、金メダル獲得数は14個（ソウル、アテネ大会の17個に次ぐ記録）で、特にアメリカとの決勝戦を制した車椅子ラグビーの迫力に驚き、勇気をもらいました。本当に、感動！感動！をありがとう！

スポーツの秋を迎え、私も健康増進とダイエットに励もうと思うこの頃です。 （遠藤）



特定非営利活動法人
介護の社会化を進める
一万人市民委員会宮城県民の会

遠藤千代 兼平幸雄 工藤俊廣
<編集委員> 曾根 務 出口 香